

ふるさとに誇りを持てる岐阜県づくり

【 背景 】

自分たちが暮らすふるさと岐阜県に対する深い愛情を持ち、未来の子どもたちに、よりよいふるさとを残していきたいという強い願いがあることが、政策総点検の作業の過程で県民から多く聞かれた。

- ・ 地域に対する深い愛情と、美しい自然や文化、豊かな伝統、昔ながらの温かい人情などに対する誇りがあり、そうしたふるさと岐阜県の良さを子々孫々の世代まで育て残して行ってほしいという願い
- ・ 誇るべきふるさと岐阜県をつくりあげていくために、自ら進んで地域づくりに参画したいという意欲
- ・ 未来の岐阜県を担う子どもたちの教育をはじめとして、県民一人ひとりの可能性を広げていけるような人づくりを進めてほしいという期待

また、平成18年は、現在の岐阜県が誕生した明治9年から130周年（飛騨美濃合併130周年）という節目の年にあたることから、これを契機として県民が「ふるさと岐阜県」の素晴らしさを共有し、ふるさとに誇りを持てる機運を盛り上げる。

合併から今日までの岐阜県の歩み（年表）

西暦	年月日	内 容
1876	明治 9.8.21	筑摩県の廃止により飛騨3郡が岐阜県と合併（飛騨支庁を設置）
1879	明治 12.3.14	県会議員第1回選挙（定員50名）
1889	明治 22.7.1	市制、町村制実施（1市25郡962町）
1891	明治 24.10.28	濃尾震災（死傷者17,773名、全壊焼失77,657名）
1897	明治 30.8.1	新郡制施行によって18郡役所を設置
1924	大正 13.10.15	岐阜県庁舎を岐阜市司町に竣工
1966	昭和 41.2.11	新県庁舎（岐阜市藪田）が竣工
1976	昭和 51.5.5	岐阜県博物館開館
1982	昭和 57.11.3	岐阜県美術館開館
1991	平成 3.11.22	置県120年式典開催

【 概要（ポイント） 】

1 飛騨美濃合併130周年記念事業

記念イベントを岐阜市内で開催するとともに、実施予定のイベント等を記念事業として位置づけることで、130周年であることを県民に広く知ってもらおう。

2 岐阜県の素晴らしさを発見しよう

地域に眠っている「岐阜県の素晴らしさ」を発見する機会をつくりだすとともに、そのような機会に資する場を効果的に運営する。

3 岐阜県の素晴らしさを後世に

古き良きものや伝統文化などを後世につなげる事業を展開する。

1 飛騨美濃合併130周年記念事業

記念イベント

新 飛騨美濃合併130周年記念行事の開催(6,000) [総合政策課]

- ・平成18年が、飛騨と美濃が合併し現在の岐阜県が誕生してから130周年という節目の年であることから、これを記念して記念行事を開催

関連イベントの開催

飛騨高山会議の開催(7,000) [総合政策課]

- ・我が国が抱える重要な課題をテーマとして選定し、全国的な著名人による基調講演や分科会等を実施することにより、岐阜県及び高山市・飛騨地方のイメージアップを図る。

全国植樹祭の開催(481,393) [全国植樹祭推進事務局]

- ・「ありがとう 未来へつなげ 森のめぐみ」を大会テーマとして、木の国・山の国岐阜から「生きた森林づくり」を全国に発信する「第57回全国植樹祭(メイン会場：下呂市萩原町四美)」を開催

史料紹介展の開催(820) [県民政策室]

- ・「絵地図にみる美濃・飛騨の姿」平安時代～現代までの企画展示事業

歴史資料館所蔵の絵地図(古地図)を中心に、エントランスホールでのパネル展示や展示室での実物史料展示を実施

県にゆかりのある作家の企画展を開催(22,046) [文化課]

- ・岐阜県美術館で県にゆかりのある作家(前田青邨、日比野克彦、武田由平)の企画展を実施

開館30周年記念特別展「緑いきいき!岐阜の森」、飛騨美濃合併130周年記念特別展「錦絵が語る美濃と飛騨」を開催(11,000) [文化課]

- ・岐阜県博物館で岐阜県の多様な森を紹介し、本県の自然の豊かさを県民に再認識してもらう特別展と美濃・飛騨にゆかりのある事柄を題材にした錦絵を一堂に会して展示する特別展を実施

新 緑の子ども会議推進事業費(948) [全国植樹祭推進事務局]

- ・次世代を担う子ども達に、県土の82%を占める森林について理解と関心を深めてもらう「緑の子ども会議」を推進するために、学校が支援を期待している指導者を育成するための指導者養成研修会を開催するとともに、活動プログラムを作成

2 岐阜県の素晴らしさを発見しよう

地域資源の発見

ふるさと農村活性化対策推進事業費(5,100) [農地整備課]

- ・農山村の持つ多くの機能や魅力の再発見を通じて、その役割に対する理解や地域環境の維持・保全の必要性等に関する意識の醸成を図る(ふるさと農山村魅力再発見バス)。

「子どもまちづくり講座」研究事業(360) [県民政策室]

- ・学齢期から自分たちのまちに誇りを持ち、愛着をもって地域に目を向けることができるようにするため、子どもを対象とした「子どもまちづくり講座」を開催

発見する機会の創出

新「ミュージアムひだ」の運営（55,264） [文化課]

- ・文化施設を活用した全県的な教育文化施策を実現するため、飛騨・世界生活文化センターのミュージアム温故知新を、県内4番目の公立博物館施設と位置づけ、「ミュージアムひだ」として運営

岐阜県「風と土のふるさと学」実践活動モデル支援事業（600） [農地計画課]

- ・地域外の人（風）と地元の人（土）が協働して、地元の人達が気づかないでいる地域の個性を再発見することを目的に地域づくりを実践しようとする活動グループを支援

3 岐阜県の素晴らしさを後世に

新ふるさと学校写真帳編集事業（4,000） [文化課]

- ・全国的にも希少な資料である明治初期における県内全域の学校校舎写真を解説をつけて編集し、「ふるさと学校写真帳」として刊行

岐阜ミュージアム推進事業（6,731） [情報産業課]

- ・岐阜県が持つ文化、伝統、自然などをデジタル化して蓄積保存するとともに、それらをWEB上のミュージアムで公開・発信することで本県の素晴らしさの発見につなげる。

新木の国・山の国県民運動推進事業費（8,000） [林政課]

- ・岐阜県森林づくり基本条例（仮称）に基づく持続可能な森林づくりを推進するため、県民みんなで支える県民運動を展開

「温故知新」運動推進事業（2,711） [県民政策室]

- ・古き良きものや伝統文化などを復興、継承していく「温故知新」運動を県民あげて展開し、ふるさとを再発見していただくことにより「誇りあるふるさと岐阜県」づくりにつなげる。

棚田地域水と土保全基金事業費（3,400） [農地整備課]

- ・岐阜県にある棚田の紹介、保全活動、棚田の持つ多面的機能を説明し、棚田保全の重要性を広くPR

明治・大正の岐阜県の姿（仮称） [県民政策室]

- ・県政資料館において、明治・大正時代の岐阜県の姿の変遷を建物（見取図・模型）、備品、写真、地図、帳簿等でわかりやすく展示公開